

# 豪州・シンガポール 調査報告によせて

2024年5月24日 財政投融资分科会

山内利夫 Ph. D

# 豪州・シンガポール比較表

	共通点	相違点
機関運営	<ul style="list-style-type: none"><li>「民でできることは民で」。民間資金の不足に対し、アカウントビリティを重視しながら、政府金融と補助金を合理的に使い分け</li><li>財務目標を強く意識(豪州Future Fundは、「一般勘定」でCPI+4~5%、「特別勘定」で同+2~3%)</li><li>機関別に政策面から評価するよりは、同機関の活動を含めた政策実施の総体で評価</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>豪州Future Fundの「特別勘定」(目的別ファンド)、CSIRO、SIVsでは政策目標も意識</li><li>加えて、一部の目的別ファンドは、レビューを行う年限を設定し(5年~10年)、目標未達時には廃止の可能性も残す</li><li>シンガポール2機関(Temasek・Vertex)は財務目標のみを追求</li></ul>
スタートアップ支援方針	<ul style="list-style-type: none"><li>補助金から民間資金への支援の連続性(continuum)、役割分担が明瞭</li><li>Go Globalと民間VC成長が課題</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>豪州は連邦よりも州が支援の中心(州政府間での支援競争)</li><li>(Go Globalでも)豪州はGo英語圏、シンガポールはGo Asia</li></ul>

## その他の気付き

---

### [スタートアップ支援の背景と支援分野]

- 両国ともに、国として、将来の収益獲得のためには新産業の育成が必要との危機感がある(例: 豪州のNational Reconstruction Fund Corp.)
- 世界共通の投資分野であるIT・医療・金融分野、ディープテック、加えて自国独自の重点分野を設定(例: 豪州のAgri Tech、シンガポールのFood / Aqua Tech)

### [国際投資]

- 両国機関ともに、国内、対外、対内の三つの投資(金融)市場を意識している
- 国内投資のみならず、①国内企業とともに海外に出る(Go Abroad with)、②海外企業とともに国内投資する(Come with)、さらには③海外企業とともに海外投資する(Go Global with)行動がみられる

## その他の気付き

---

### [スタートアップ人材]

- 両国ともに、エスニック・ダイバーシティが進んでいることもあり、スタートアップ人材においても外国籍・移民の存在感が高まっている
- 外国籍・移民支援策としての政府資金によるスタートアップ支援はないが、結果的に外国籍・移民が設立したスタートアップを政府資金が支援している
- 豪州では、スタートアップエコシステムへの女性参画を明瞭に意識している

### [運用組織]

- 投資は現場に任せ、組織効率性とインセンティブを重視
- 豪州Future Fundは、「一般勘定」と「特別勘定」を同一組織が運用。対して、各省庁が設定したSpecialist Investment Vehicles (SIVs)はそれぞれ運用組織をもつ